

都市公園の柔軟な管理運営に関する取組の実施状況について（報告）

1 公園利活用について

全国的に、都市公園においては、Park-PFI 等、ハード面の充実を図る制度の活用は一定程度進んでいる一方で、公園の管理運営に関しては、依然として画一的なものが多く、公園のポテンシャルを十分に引き出せていないのが現状である。

そのような中で、本市は、それぞれの公園が持つポテンシャルを最大限に引き出し、その魅力や利便性を高めるとともに、公園をまちづくりの拠点として柔軟に運営し、地域の課題解決や価値の向上につなげていきたいと考えている。

そこで、民間の知恵と活力も取り入れながら、それぞれの公園の特性を最大限に生かした利活用の取組を推進している。

2 各取組の実施状況

(1) 「公民連携 公園利活用トライアル事業」（通称：おそとチャレンジ）

ア 概要

民間企業などに対して公園の柔軟な利活用を試行的に認め、地域・企業・行政で継続的に対話等を行いながら、それぞれの公園の理想像を探る社会実験（令和 3 年度～）

イ 対象公園

＜令和 3 年度＞ 宝が池公園（左京区）、竹間公園（中京区）
新京極公園（中京区）、船岡山公園（北区）

＜令和 4 年度＞ 対象公園を拡大して実施中（※1）
東山山頂公園（東山・山科区）、桂坂公園（西京区）
唐橋西寺公園（南区）、円山公園（東山区）（※2）

※1 「移動型店舗部門」（例：キッチンカー）については、対象公園を適宜追加できることとしている。記載は令和 4 年 8 月末時点での事業実施公園

※2 円山公園は利活用事業者随時募集中

ウ 実施状況（別添「おそとチャレンジ」冊子参照）

B B Q やアート展示など、普段の公園では体験できない多彩な企画を実施

エ 成果

・来園者に対して実施したアンケートでは、満足度、継続希望ともに 8 割以上あり、公園の印象が普段に比べて良くなったとの意見が大多数を占めるなど、多くの賛同を獲得

・民間企業と地元団体の連携だけでなく、そこに市民活動団体や大学、芸術家といった多様な主体が加わり、単なる賑わいの創出ではなく、地

域コミュニティの活性化など、地域課題の解決に取り組んだ事例も生まれている。

- ・誰かとつながる場所として、あるいは自分の大事にしていることを表現する場所として、公園を利用する側でなく、楽しみを提供する側に周り活動される方が出てきている。

オ 課題

- ・屋外での活動のため、天候や季節に大きく左右される。
- ・一過性の社会実験ではなく、持続可能な取組とするための財源確保

⇒これらの課題を踏まえ、令和5年度以降に(4)で示す新たな公園運営モデルの導入を検討

(2) 宝が池公園を拠点としたエリアマネジメント試行事業

ア 概要

トライアル事業を通じた協働の輪を出発点に、それぞれの公園の特性や課題を踏まえたうえで理想像を描き、その実現に向けて産学公民など多様な主体と連携して公園を柔軟に運営する仕組みを構築するため、本市唯一の広域公園である宝が池公園をモデルに、エリアマネジメント試行事業に着手（令和4年度～）。

多様な主体と将来像を共有しながら面的にまちづくりを展開し、地域の課題解決と価値向上につなげていく。

イ 実施状況（別紙1 広報資料参照）

(ア) 交流会

地域の方や市民活動団体、大学、芸術家、地域企業、行政等多様な人材が、宝が池公園の現状を学びながら知恵を結集し、実際に利活用プレイヤーとなる機運を醸成するための交流会を定期開催し、宝が池公園の将来像や試行事業等に関する意見交換を行っている。

そこから生まれた公園利活用のアイデアを具現化しながら将来像の在り方を探るため、11月に公園の未来像を描くイベント「・・・だから、宝が池。」を実施予定

(イ) エリアプラットフォームの準備、未来ビジョンの検討

本市、公園関係者、周辺団体、民間企業等で構成するエリアプラットフォーム準備組織を結成し、外部有識者の助言等を得つつ、試行事業を行いながら持続可能な運営の仕組みづくりを行う。同時に、多様なアプローチからまちづくり活動を展開するための共通の指針となる未来ビジョンの方向性を検討

(3) 宝が池公園長期利活用に係るサウンディング型市場調査

ア 概要

公園の魅力向上に資するとともに、柔軟な公園運営を支えるための財源や活動拠点の確保に資する施設整備の可能性について探るため、民間企業との対話を通じて公民連携事業に関する様々なアイデアや意見等を把握するサウンディング型市場調査を実施（令和4年度）

イ 実施状況（別紙2 広報資料参照）

宝が池公園の課題（①～③）の解決に資する公園施設の整備・運営及び当該施設を拠点としたイベント企画等について、提案を求めた。

- ① 来園者ニーズ（飲食店やレクリエーション機能、駐車場）を踏まえた広域公園としての機能の充足
- ② 低利用地（菖蒲園等）の利活用による公園全体の回遊性向上
- ③ 地域の交流・賑わい機能の創出、自然環境の保全・再生・利活用

(4) 持続可能で柔軟な公園運営モデルの構築に向けた検討

ア 概要

トライアル事業の成功事例を発展させ、宝が池公園のような規模の大きな公園だけでなく、地域住民に身近な街区公園においても、持続可能で柔軟な公園運営が実現できる仕組みを構築し、令和5年度以降の導入を検討する。

イ 実施状況

柔軟な公園運営の取組を持続可能なものとするためには、活動拠点や必要な人材の確保、事務局やイベントの運営等を行うための財源等の確保が必要になる。

そこで、持続可能で柔軟な公園運営モデルの構築に向けて、「公民連携・課題解決推進事業 KYOTO CITY OPEN LABO」（※）で具体策の提案を募集したところ、本市と地方創生包括連携協定を締結している、株式会社セブン・イレブン・ジャパンから応募があり、審査の結果、パートナー企業として採用した。

同社からは、地域が主体となる公園運営を企業等多様な主体がハード・ソフトの両面から支援する、持続可能な公園運営支援モデルの提案があった。

具体的には、店舗と地域の交流スペースが一体化した公園施設の検討や、店舗の収益を公園運営の支援に活用すること等について、地域・本市と共に研究を行いたいとのこと。

ウ 今後の取組み

パートナー企業とともに、モデル公園においてワークショップやイベント等の試行事業等を行いながら、活動拠点や必要な人材、財源の確保の具体策を研究するとともに、地域住民や公園関係者との対話を行い、ニーズ

をしっかり把握したうえで様々な公園で柔軟な運営ができる仕組みを研究する。

(※)「公民連携・課題解決推進事業 KYOTO CITY OPEN LABO」

行政課題の解決に向けて、本市と民間企業等が実証実験や具体的実践に共同で取り組む事業

広報資料

「プレイヤー」の活動レポート、
イベント情報等を発信！

令和4年7月29日
京都市建設局
みどり政策推進室
電話：075-222-4113

宝が池公園の柔軟な運営に向けてSNSを開設！

～多様な主体の協働による地域の課題解決と価値向上を目指して～



宝が池公園（左京区）は市内唯一の広域公園（※）であり、これまでから様々な団体によって豊かな自然の保全再生や公園利活用の取組が展開されています。京都市は、宝が池公園らしさを未来に継承しつつ、その魅力を最大限に引き出しながら、産学公民の連携による持続可能で柔軟な公園運営を実施することにより、宝が池公園を拠点にした地域の課題解決と価値向上に資するイノベーションエコシステムを形成したいと考えています。

そこで今年度から、宝が池公園の将来像の検討及び多様な人材が関わるエリアプラットフォーム等の仕組みづくりに着手します。併せて、多様な人材が集う交流会を開催し、そこから生まれた公園利活用のアイデアを具現化しながら将来像の在り方を探るため、11月に試行事業を開催予定です。

この度、SNSを開設し、これらの取組の情報を随時発信していきますので、お知らせします。

（※）広域公園：主として一の市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする公園（国土交通省HP）

1 SNSの開設（7月29日～）

ソーシャルメディア	URL	二次元コード
Facebook	https://www.facebook.com/k-yoto.takaragaikepark	
Instagram	https://www.instagram.com/takaragaikepark/	

2 発信する主な情報

(1) 活動レポート

地域の方や市民活動団体、大学、芸術家、地域企業、行政等多様な人材が、宝が池公園の現状を学びながら知恵を結集し、実際に利活用プレイヤーとなる機運を醸成するための交流会を定期開催し、宝が池公園の将来像や試行事業等に関する意見交換を行っています。SNSを通じて、交流会の様子や参加しているプレイヤーの活動をレポートします。

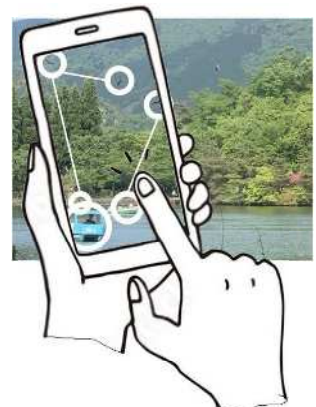


検討中のアイデアの例

～「自然と人の間」をテーマにした

アート展示～

人の感情と動物の生態や自然を組み合わせた、楽しみながら体験できる作品の制作・展示。制作費等はクラウドファンディングの活用を検討中



(2) イベント情報等

宝が池公園の自然の保全・再生の取組や公園利活用イベント、11月に開催予定の試行事業等の参加者募集情報やイベント内容等、様々な情報について発信します。

(広報資料)

令和 4 年 9 月 1 3 日

京 都 市 建 設 局

〔 担当：みどり政策推進室 〕

〔 電話：075-222-4114 〕

「宝が池公園の持続可能な公園運営に資する
公民連携事業に向けたサウンディング型市場調査」の結果の概要について



狐坂エリアから望む宝が池



菖蒲園エリア

京都市では、宝が池公園の運営に係る安定的な財源確保とともに、公園の魅力向上、自然の保全再生等の課題解決にも寄与する公民連携による公園施設整備の可能性を探るために、サウンディング型市場調査を実施し、下記のとおり結果の概要を取りまとめましたので、お知らせします。

今後、頂いた御提案等も参考に、公民連携事業の手法や公募条件について、検討を進めていきます。

記

1 対象

宝が池公園（左京区上高野流田町 8 他）

※ 破線内エリア

2 実施経過

令和 4 年 3 月 2 9 日 実施要領の公表

4 月 1 5 日 説明会の開催

4 月 2 8 日 質問回答

6 月 1 3 日～2 3 日 提案者との個別対話



3 提案者数

9 者

(主な業種) 飲食サービス業、建設業、不動産業、イベント企画等のサービス業

4 提案概要

(1) 公園施設の整備・運営について

カフェやレストランなどの飲食店、市民が集うコミュニティスペース、キャンプ場やグランピング施設、アスレチック等のアウトドア施設、ドッグラン、ヘルスケア施設、駐車場等の提案がありました。

また、基本的な条件として、公園施設の整備に当たっては、公共交通機関や駐車場等の交通アクセスを確保することが必須であるとの意見がありました。



(2) 公園施設を拠点としたイベント企画について

マルシェやキッチンカー、園内周遊・トレッキングイベント、アウトドアイベント、アートイベント、音楽イベント等の提案がありました。

(3) 柔軟な公園運営への寄与について

公園運営に参画する仕組み作りへの協力、森づくり活動や公園設備改修等への売上の一部還元、公園清掃、地元の雇用創出等の提案がありました。

(4) 公園を取り巻く課題への寄与について

園内伐採木の燃料としての活用、園内移動手段の整備(電動キックボード、セグウェイ、トロリーバス等)、自然保全に関する情報発信、クラウドファンディングの実施等の提案がありました。

